

気候変動適応に関する研究機関連絡会議（第3回）

議事概要

【日時】 2022年3月30日（水）15:00～17:00

【場所】 オンライン（Zoom ミーティング）

【議題】 1. 気候変動適応に関する最近の動向について
2. 令和3年度気候変動適応の研究会の開催報告
3. 今後の気候変動適応の研究会の活動等について
4. その他

【出席者】 参考資料1「第3回気候変動適応に関する研究機関連絡会議 出席者一覧」参照

【議事内容】

・ 議題1について

資料1に基づき、事務局より、気候変動適応に関する最近の国内外の動向および国立環境研究所 気候変動適応センターの活動状況について説明が行われた。

・ 議題2について

資料2に基づき、事務局より、2021年度の会合開催について全体的な報告がなされた後、2月に行われたワークショップにおける6つの分科会のチームリーダーにより議論内容の報告がなされた。

・ 議題3について

資料3に基づき、事務局より、2021年度活動の総括の後、2022年度活動の方向性について提案がなされた。

以後これについて質疑応答が行われた。主な内容は以下の通り。

（委員） 来年度も今年度と同様なワークショップ、分科会を開催するのか。

→（事務局） 分科会ごとにワーキンググループ設立の可能性について大分差があるようなので、ワークショップと分科会を一体で開催する形とはせず、分科会については個別に日程調整して行った方が良いのではないかと

と考えている。

(委員) 分科会の幹事機関はほぼ確定で今後も継続するのか。

→ (事務局) 引き続き議論を主導していただけるとありがたいが、難しければご相談させていただきたい。

(委員) 具体的な連携のためには予算が必要。関心のある機関間で外部資金を取っていくという形で進めていかざるを得ないのかなど、今後の進め方はどうなるのか。

→ (事務局) 国環研として大きな予算をお配りできる状況ではないので、各分科会の中でそれも含めて議論していただけるとありがたい。議論をするための会合を開催するための支援については経費も含めてできる限り尽力したい。

(委員) 今後の議論の進め方は、必ずしも分科会の中だけではなく、他の分科会とも相談していく進め方になるだろうか。

→ (事務局) 今後も各分科会がベースになると思うが、テーマ別に個別のメンバーで議論していくことはあって良い。

(委員) 分科会の参加機関の再編や新たな参加を募る手続きはあるのか。

→ (事務局) 2022年度活動開始にあたって、新規・継続参加の意向確認の手続きを行う。各分科会の報告について、基本的には幅広く情報共有させていただきたい。

以上の他、各委員より今後の進め方について意見が出され、課題は事務局で整理、各参加者と調整して詰めるということで合意がなされた。

(主な意見)

- 各分科会での検討は属人的な話になりがち。現在、環境研究総合推進費 S-18 などの大型プロジェクトが何をやっているのかという情報を分科会と共有しないと、似たようなことをやろうとして提案しても予算化は困難では。
- 分科会が仲間内になっている印象。全く異なるテーマ間での連携のほ

うがいいのでは。新しいことをやるなら分科会間の間を埋めるようなことをやっていかないと面白くない。気候変動適応は防災的な要素が強く、ネガティブサイエンス。ポジティブサイエンスに何かを持っていけるような、気候変動を逆利用するみたいな、今までの枠組みの中ではない連携が必要。

- 分科会の議論の結果をどういう形で社会実装のほうにつなげていくのか。地域の気候変動適応計画策定につなげるという観点で、地域のニーズに応じた成果の届け方、地域センターを交え、社会実装につながるような議論ができればいい。
- 何かを実現して、この連絡会の成果みたいなものだというふうに言おうとするのであれば、もう一工夫が必要。ただ集まって話し合いをして、こういう場は重要だねという結論をずっとこう積み重ねていくようだけでは足りない。
- 分科会を積み重ねて、問題点を共有して、一步一步進めていくということが、今後の連携活動をさらに充実していく。目標の達成を急ぎ過ぎないというほうがいい。
- 分科会の議論でニーズと情報提供者のギャップが強く指摘されていた。社会実装を目指して、どういうふうにそのギャップを埋めていくかという活動が連携活動になるかと思う。
- 前もってどういうことがあるのか、シーズをある程度探して、そのワーキンググループに生かしていく仕掛けみたいなのが必要。
- 出口として、社会実装を目指したりとか、見える形でのプロジェクトメイクということも大事だが、その一つ手前の段階、思いもよらないような視点からや、着眼点で研究をやっているというようなところを知る機会というのは、実はあるようでなかなかない。まず知る機会をなるべく多くつくって、そこに優秀な若手を派遣して、視野を広げてもらうことも必要。
- 幅広い議論の中から、テーマを絞り込んでワーキンググループが設置されていくというのがうまく進めば、非常にいい。
- 具体的に話が出てきたところで、少し、目標にすぐに行かないで議論するということが必要。

- ・議題 4 について
特になし。

【配布資料】

資料1 気候変動適応に関する最近の動向について

資料2 令和3年度気候変動適応の研究会の開催報告

資料3 令和4年度気候変動適応の研究会の活動の方向性について（案）

参考資料1 出席者一覧

参考資料2 気候変動適応に関する研究機関連絡会議 設置要綱

参考資料3 第2回気候変動適応に関する研究機関連絡会議 議事概要

参考資料4 理研・関様提出資料（農業分野の今後の連携案に関する参考資料）

以上